



2020年の恵方・西南西「浄海山 圓龍院 観音寺（荒子観音）」



## 新年のご挨拶

国家公務員共済組合連合会 名城病院院長 後藤 秀実

新年明けましておめでとうございます。旧年中は国家公務員共済組合連合会名城病院に対しご指導・ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。本年も引き続き宜しく申し上げます。

さて、医療を取り巻く環境は年々厳しくなっております。昨年10月から施行されました消費税の増税、今年行なわれます診療報酬改定、さらに医師の働き方改革や地域医療構想など日本の医療は大きく変わろうとしています。その要因として、今後日本が迎えます少子高齢化が挙げられます。高齢化社会においては、女性や高齢者からの労働力の獲得、人口に対する病床数の是正が必要となります。それらに加えて、医

療費の増加も大きな問題です。

このような状況下で、我々は326床(47床の地域包括ケア病棟を含む)を有する中規模の当院が、地域住民の健康維持や要望にどのように対応したら良いか、あるいはこれらの改革をどのように乗り越えたら良いのかを常に考えております。

当院は、幸いにも平成27年10月に「地域医療支援病院」として、平成28年4月には「中区在宅医療・介護連携支援センター」(現 中区はちまる在宅支援センター)として認められていますので、本年はこの役割を今まで以上に強化するつもりです。すなわち、「地域医療支援病院」としての重要な役割であります紹介患者受付は、時間内は病診連携室で、時間外は各診療科が直接対応しておりますが、その対応を出来る限り早くスムーズにしたいと考え

ていますし、救急隊からの救急要請に対しましても出来る限り受け入れたいと考えています。

さらに、当院周辺では高齢者のみや高齢夫妻のみの住居が多い事を考え、「高齢者に優しい病院」として、当院の地域包括ケア病棟を中心としたレスパイト入院<sup>(※1)</sup>やアセスメント入院<sup>(※2)</sup>も積極的に行なっていくつもりです。

本年も、当院がこの地区の住民の健康に貢献でき、さらに皆様方から愛される病院になるように努めますので、宜しくお願い申し上げます。

(※1) 在宅療養を受けている患者さんの介護をしている家族が一時的な理由(冠婚葬祭、休息、病気など)で介護が続けられない期間を支援するための入院で在宅医療を推進することを目的としている

(※2) 在宅療養へ移る時やすでに在宅療養している患者さんが在宅での生活を続けていくために必要な精査、評価を行い、安全・安心に在宅医療を継続できることを目的とした入院



入場無料/事前申込不要

## 市民公開講座のお知らせ

名城病院では市民公開講座を毎月定期的に行っています。入場無料ですので、お気軽にご参加ください。

会場  
名城病院  
地下1階  
大会議室

詳細は、ホームページでもご確認ください

3月6日(金) 14:00~15:00

感染制御管理部

「自宅で出来る感染対策について」

感染制御管理部主任看護師 藤岡江里

3月16日(月) 14:00~15:00

消化器内科

「消化器のがんを早く見つけるには」

名城病院長 後藤秀実

## がんを予防するための食生活とは

本原稿では病気の予防となる食生活について概説いたします。食生活と病気と言えば、すぐに高血圧や糖尿病などの生活習慣病を思い浮かべられる方が多いと思います。しかし今回は食生活との関連が比較的明らかになっている食道がん、胃がん、大腸がんについて述べさせていただきます。

食道がんですが、その発生には飲酒と喫煙が強く関係しています。毎日飲酒をしている人が食道がんになるリスクは、飲まない人と比較して2倍以上高く、1日あたりの飲酒量が増えるとそのリスクも増大します。さらに飲酒と喫煙の両方が重なると、さらにリスクが高くなります。食道がんを予防するためには、まずたばこをやめ、野菜や果物をたくさ

んとり、アルコールや熱い飲食物の摂取を控える事が重要です。

胃がんの発生リスクを高める要因は、以前に日本人がよく食べていた塩蔵魚や漬物等の高塩分食品の摂取です。塩分濃度が高いと胃粘膜の傷害や炎症等を起こし、発がんを促進すると考えられています。一方、胃がんの発生に予防的に働くものとしては、新鮮な野菜や果物の摂取があげられ、これらの食品中のいくつかの栄養素が発がんを抑制すると言われています。

大腸がんは、保存・加工肉の摂取量の多い人にリスクが高いことは知られています。この原因として、動物性脂肪による細胞分裂促進作用や、動物性タンパクの加熱により生成される発が



ん物質等によると推定されています。また、肥満やアルコールの摂取も、大腸がんのリスクを高めます。一方、野菜類の摂取が、定期的な運動とともに、大腸がんの発生を抑制致します。

また、最近食事と腸内細菌叢(ちょうないさいきんそう)との関係が多く報告されています。さらに、腸内細菌叢は種々の疾患の発生に関与すると言われていますが、まだ十分に明らかにされていません。

いずれにしましても健康の第一歩は食生活ですので、毎日の食事に気をつけられて健康を保たれる事を願います。

## 呼吸器内科・呼吸器病棟紹介

私たち呼吸器内科では、肺炎、肺癌、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、喘息など、呼吸器疾患を中心に診療しています。近年、日本は超高齢化社会を迎え、病院に多くの患者さんが受診されるため、呼吸器疾患ながら、年齢に伴う認知力の低下、身体機能の低下、ひいては日常生活の困難さに見舞

われる患者さんも少なくないと感じております。私が初期研修をしていた頃は、「急性期の治療が終了すれば即退院」という状況が日常化していましたが、中には患者さんやご家族から「このまま家に帰っても大丈夫ですか?」「もう少しリハビリなど入院が延ばせませんか?」という声も聞かれ、歯がゆい思いもしていました。しかし

ながら、当院呼吸器内科では病気の診断・治療を行いながらも患者さんへのケア・サポートを充実するように努めています。具体的には、病棟のミーティングでは、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、退院支援看護師なども踏まえて一人一人の患者さんの情報共有と共に適切な退院援助計画を立てており、更に内科外来、救急外来、包括ケア病棟、かかりつけ医、訪問看護ステーションなど様々な職種の方々と密に連携を図り、シームレスな入院・退院サポートを行っております。私自身当院に赴任して間もないですが、患者さんの中から「良い病院ですね」と言ったお言葉を掛けて頂くこともあり、医療者冥利につきる思いであります。これからも、地域の方々に信頼されるような病院作りに邁進して参りますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。



呼吸器内科11階病棟にて。  
後方に名古屋城も見下ろせる絶景であります。



## 腎臓内科紹介

閑静な官庁街の一角にあるこの病院で新たに腎臓内科としてスタートしてから、はや10か月が過ぎようとしています。

一昔前、都市部を中心に救急車のたらいまわしが問題になった時期があり、救急医療体制全般の見直しが行われました。三次救急を担当する病院にはあらゆる診療科の存在と高度医療が可能な設備が求められ、人的資源と公的資金の優先的な注入が必須となっており、結果、救急患者の集中と病床不足が問題になりつつあるとも聞いています。

他方、リハビリや長期療養などの慢性期治療に専念した病院群もあり、それぞれの地域で一定の役割を担っております。当院を含む二次救急病院群においては、自由度が高い分、全科診療、

高度救急医療にこだわらず、より得意な分野の医療を積極的に行う必要があるのではと考えています。

当院は、歴史ある脊椎・脊髄センターと循環器センターに加え、内視鏡センター、健診センターがリニューアルされ、新たな柱となるべく期待されています。

我々、腎臓内科診療においては、何よりもまず20床ある透析室を最大限活用することが重要と考えております。透析導入や通院維持透析に加え、合併症治療に有用ないくつかの高度治療可能な科があることから、これらの合併症を発症した透析患者さんを積極的に受け入れることが可能です。

さらに当地域は、近隣の高度医療病院の透析ベッドに空きが

少ないことから、地域包括ケア病棟などを利用し垂急性期の診療を積極的に担当することも必要とされています。

他にも、シャント手術、PTA<sup>(※1)</sup>などを心臓血管外科の先生にお願いできること、当院の健診センターで綿密にスクリーニングされた慢性腎臓病の患者さんを的確に拾い上げ高次病院での早期からの加療へとつなげることが可能などの、いくつかの特色もうまく機能させる必要があります。

わずかずつでも歩みを進めていけたらと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

※1 経皮的に血管の狭窄部までバルーンカテーテルを挿入し、バルーンを膨らませることで血管を拡張する手術。



## 入退院支援室の紹介

2019年9月、1階に入退院支援室がオープンしました。

患者さんやご家族にとって入院は普段とは異なった環境での生活となり、様々な不安や心配ごとが多いことと思います。入退院支援室は、患者さんの入院・退院に向けての

問題を把握し、多職種で支援することにより、患者さんやご家族が、安心して入院・退院できるようにすることを目的として開設しました。

ここでは看護師、事務職員が入院前に一人一人の患者さんと面談しています。

事務職員は入院の準備や入院に必要な各種手続き、入院費などについて説明しています。看護師は患者さんの入院前の生活状況やお身体の状態についてお話を聞きます。栄養状態やお薬の服用状況、転倒の危険性はないかなど必要な情報を把握し、どのような介入や支援が必要となるのか評価して入院後の看護につなげています。また、検査や治療の内容、退院までのイメー



ジを描くことができるようにわかりやすく説明し、患者さんの不安や疑問に答えます。必要な場合は医療相談員、薬剤師、栄養士など他の専門職と連携・協力しています。

入院前から準備をし、安全で安心な検査・治療を受けていただき、スムーズに退院後の生活が送れるように支援していくことが私たちの役割です。

退院後の療養生活について不安や心配なことがありましたら、入退院支援室へご相談下さい。



## 令和2年1月診療分から 『名古屋市子ども医療費助成制度』が拡大されました

18歳(18歳到達以後の最初の3月31日)までの方を対象に入院分の医療費助成を行います。

- 【対象者】 15歳到達後の最初の4月1日から  
18歳到達以後の最初の3月31日までの方
- 【助成の範囲】 入院した際の医療費(保険診療分)の自己負担分を助成します。
- 【申請について】 助成を受けるために申請が必要となります。  
お住まいの区の区役所保険年金課保険係にてお手続きできます。
- ※ 室料差額などの保険外負担は除かれます。  
また、食事療養費の標準負担額も対象外です。



詳しくは、名古屋市ホームページ「暮らしの情報」

名古屋市子ども医療費助成制度

制度の詳細、手続き方法  
や申請書のダウンロード  
もできます。

### 編集 後記

みなさん、1月の誕生月の花をご存知ですか。雪が降ったり、霜が降りたり、とても寒い時期の一年の始まりとなる1月の誕生月の花は「カーネーション」です。カーネーションは、何と言っても「母の日」の象徴。5月の誕生月の花ではないかと思ってしまうですね。冬のさびしさが漂うこの寒い時期だからこそ、温かなぬくもりや深い愛情を感じさせてくれる花だと思えます。  
K.O.



<http://www.meijohosp.jp/>

## 名城病院診療等のごあんない



### 診療科目

内科(消化器内科/呼吸器内科/腎・糖尿病内科), 循環器センター(循環器内科/胸部心臓血管外科), 小児科/小児循環器科, 外科, 整形外科(脊椎脊髄センター), 脳神経外科, 皮膚科, 泌尿器科, 婦人科, 眼科, 歯科口腔外科, 神経内科



### 診療受付時間

新患 午前 8:30~11:30  
再来 午前 8:00~11:30



### 休日

土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)



### 面会時間

一般 午後 0:30~8:00  
ICU (家族のみ) 午後 0:30~4:30  
午後 5:00~8:00



- ・時間外および休日の診療は救急外来にて受付しています。事前にお電話でご相談の上、お越しください。
- ・人間ドック、その他専門ドックのご相談、ご予約は総合健診センターで受付しています。



〒460-0001 名古屋市中区三の丸1丁目3番1号

052-201-5311 FAX 052-201-5318